

# 三條別院のご案内

## 三條別院に想う

「別院へ参つて、小吉屋に泊まつて、帰り土産は植木物」子供の頃から耳にした言葉です。

近郷の門徒にとつて別院のお取り越しは、息抜きを兼ねたお参りだったようです。

前回の別院宗祖七百回御遠忌法要の草鞋役が、私が別院に來た最初でした。法要が始まる前はガヤガヤと賑やかな満堂の参詣者が、法要の時は静かに、お念仏の声は押し出すように本堂に響いて、その迫力は私を驚かせました。

出仕は二十五歳の頃、巡讀をしないという条件で晨朝に動員されたのが最初でした。以来何年か晨朝の人数合わせに出仕する機会をいただくことになりました。大先輩の中、ただただ座っているだけなのに、緊張で頭も身体もガチガチになっていたことを思い出します。

当時の別院の事務所には、お酒好きで面倒見がよいIさん、顔を見るなりニコニコと話しかけてくれたTさん、サービスピ精神満点だけれど少しおつちよこちよいなWさん、研修会になると顔を出す列座のSさん。教区同朋会館ができる前のお世話になった方々です。それはOさんの「セー」でお取り越しの恩徳讃が始まるような時代の思い出です。

出です。

別院でお会いしたご門徒のTさん。小さい頃から聴聞を重ねて、若い頃には尼さんになりたくて富山のお寺に入り説得されて在家に戻ったという筋金入りの念仏おばあちゃん。初めてその一代記を語ってくれました。

「妻が今重体なのですが、倅夫婦に押し出されてこの大会に参加しています」というお爺ちゃんにも会いました。思わぬ出会いもありました。日頃自坊で接するご門徒とは違う姿が別院にはありました。「あなたは何を聞きに來られたのですか」という講師の間に「ハツとする思いでした」と語られたご門徒の言葉に別院の本来の姿を知らされました。

息抜きであつたり、大会であつたり、イベントであつたり、私たちはさまざま思いを持ちながら別院にきます。そして参道からだんだんと見えてくる別院本堂は、私たちを迎え入れようとして翼をせいっぱい広げている母鳥の姿に見えるのは私だけでしょうか。

(第十六組願善寺住職 光井榮泉 氏)

## ○次回の「三條別院に想う」は、

相澤 佐喜男 氏 (第十二組長願寺門徒)

ご執筆いただきます

## ■今年度の別院声明教室が終了

別院声明教室が、五月二日から六月二十七日までの全五回の日程で行われ、二十一名の参加者が、研鑽に励みました。講師は昨年同様、新潟市北区、福照寺の中富正純氏でした。

今年度は日常お勤めする機会の多い正信偈(草四句目下)、念仏讃(淘三)が講習内容でした。慣れ親しんだお勤めですが、学んでみると微妙な節譜の扱いが多くあります。終了を迎えるに当たり、数句を一人でお勤めする課題もあり、参加者からは、「突然あてられて緊張したが、一人で発声してみても勉強になった」という声がありました。皆さん、充実した顔で最終回を迎えられました。

声明・儀式に関する研修会が少ない現状の中、次年度も継続して声明教室を行う計画です。「三條別院に行けば何時でも声明が学べる」と皆様に感じていただけるようになることを願っておりますので、ぜひとも足をお運びください。



【指導にも熱が入る】

## ■朝の人生講座・夏の御文拝読

本年も左記のとおり朝の人生講座・夏の御文を開催いたします。

清々しい朝のひと時を仏法に触れながら三条別院で過ごしてみませんか。

◎人生講座終了後、簡単な朝食をお配りいたします。

◇日 時 八月二十四日(金)～二十七日(月)

午前六時 晨朝 夏の御文拝読  
午前六時二十分 人生講座

◇場 所 三条別院本堂

◇御講師

二十四日 朝倉 安都子氏(第二十組金寶寺)  
二十五日 北原 致 氏(第十一組 西照寺)  
二十六日 加藤 真人氏(第二十二組善良寺)  
二十七日 安富 信哉氏(大谷大学教授)

※詳細は来月発送の案内チラシをご覧ください。

## ■御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話その後、座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げております。

なお、前日(二十七日)はお逮夜法要を、午後

一時三十分よりお勤めをしております。

【七月二十八日(土)】

午前十時 お勤め(御命日) 日中法要

文類偈 行四句目下

念仏讚 洵五

和 讚 回口 次第六首

回 向 願以此功德

## ◎今月の法話講師

森 惠成 氏 (三条教区駐在教導)

## ◇今後の講師一覧

八月 村山 まみ 氏(真宗学院第一期卒業生)  
九月 直江 弘憲氏(第十八組 長願寺)  
十月 井上 知法氏(第十三組 願性寺)  
十一月 高田 正人氏(第二十組 西養寺)  
十二月 北島 栄誠氏(第十一組 長福寺)

## ■定例法話会のご案内

毎月十三日は、「両度の命日」と呼ばれている前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文の中で、この「両度の命日」についてお書きになられています。(四帖目十一通)

三条別院の一番古い建造物である旧御堂で仏法に触れるひと時を味わいませんか。

皆様、お気軽にお越しください。

◇日 時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後二時三十分より(一時間程度)

◇場 所 三条別院 旧御堂

◇御講師

五月～七月

赤沼 義昭 氏(第十三組 西方寺)

八月 休会

九月～十二月

北原 了義 氏(第十一組 西照寺)



【講師の赤沼氏は、牧師を目指したものの、  
諸々の因縁で僧侶になってしまったという】

## ■三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いを持ち、法話や座談会(茶話会)など、近隣の方をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。

現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院ください。お問い合わせは三条別院まで。

## ■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方には、同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記帳していただき、シーツクリーニング代としまして、五〇〇円いただいております。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

## ■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では教えるほどこしか行われていません。

ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただくご縁となりますことを願っております。

※巡回の曜日・時間等は、できるかぎりご都合に合わせてますので、お気軽にご相談ください。

## ■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。

ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方（団体）の、冥加金は左記のとおりです。

### ◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
- ・一泊二日 二、五〇〇円

### ◎食事代（昼・夕食は業者発注のため）

- ・朝食代 五〇〇円
- ・昼食代 一、〇〇〇円程度
- ・夕食代 一、三〇〇円程度

◎六月には、第十三組宮原善行寺、第十九組西光寺、東京教区群馬組勝念寺、高田教区第六組坊守会からの団体参拝がありました。

善行寺参拝団の皆様は、別院を会場に行われた御坊市（別院フォーラム）の日に来院され、賑やかな本堂・旧御堂を拝観されました。かつての別



【高田教区第6組坊守会が本堂で勤行】

院に参詣する人々は、交通が発達していなかったため、本寺小路に宿をとり、そのために街が栄えたと言われています。一六九〇年創建の三条別院は、「地域の教化の中心道場」として、教学・儀式による教化を続けてきた歴史があります。また、三条の町が大正時代まで「仏都三条」と呼ばれていたように、信仰の場として三条発展の中心的役割を果たしてきた別院です。

別院巡回、奉仕研修、団体参拝を通じて、皆様と仏法を共に学んで参りたく存じます。遠方の方も、ぜひ三条別院にお参りください。

## ◇◇編集後記◇◇

最近、衣を着る機会が増えている。というより、列座諸氏で話し合っただけで増えている。書記と列座を兼務しているという都合上、背広を着用する機会も多いが、よく考えてみると、背広を着用すべきと普段考えている場面も、本当は衣を着るべきなのかもしれない。二十八日の御命日の後には、衣のまま、みんなで「今泉」にそばを食べに行く。

六月は別院の行事は少なかったが、教区の「御坊市（別院フォーラム）」などで、多くの街の人々と出会った。

洋服の人々の中で衣を着ている意味は何なのかと考える。その時、社会の中で、私は「仏弟子として」どのような発言ができるのか、と問われているような気がしている。

(S)